

私達は、魯迅ゆかりの魯迅故居・魯迅記念館・三味書屋などを、地元ガイドさんの案内で見学しました。ガイドさんは大学生に見える若いお嬢さんでした。私達が日本人でも、笑顔で丁寧に説明をしてくれました。

お昼は、魯迅の小説『孔乙己』に登場する居酒屋で、紹興酒とともに小説に登場するメニューを頂きました。店は名物料理を味わいに、各地から訪れる人達で混み合っていました。その混み合う店内に、仙台料理の看板を発見しました。日本人の私達は、仙台料理の文字はとても気に入り、偵察に行きました。メニューを確認すると、仙台料理＝鉄板焼きと判明しました。

また、現在の紹興市は紹興酒産業以上に織物産業が盛んです。大きな繊維市場がいくつもあります。町を走る車の荷台には大きな長いボールが大量に積まれていて、それは生地でした。私達のバスが、ブレーキを踏むことなく40分以上も1本道を走り続けても、まだ市場が続きます。私はMade in chinaのパワーに、先程飲んだ8年ものの紹興酒の味も忘れて、呆然と車窓を眺めることになりました。



安徽省には世界複合遺産の黄山と世界文化遺産の安徽南部古村落があります。安徽省と言えば『薬膳・素材辞典』52ページの菊花を参考にして下さい。白菊花の産地です。

朝日と共に車窓から水牛と白いジュータンが見えました。白菊畑です。最初に世界文化遺産の西通村を訪ねました。宋朝の元祐年間に河川の西岸にできた村です。元の名は西川と呼ばれました。しかし物資輸送の駅として使用されたため通は宿場の意味で西通と呼ばれるようになりました。



この村は10世紀より胡氏により支えられ、17世紀には胡氏から官僚が出たために、さらに発展した村です。現在でも村人は住んでいます。私達が遭遇したのは美術大学の学生さん達でした。各々好きな村の景色を写生していました。彼らは1週間滞在して作品を描き上げるそうです。この村の特徴は、路地がおおいことと、明清建築が観光用に保全されています。その時代の生活様式がわかります。家の家長は商売のために留守がおおく、夫人は好きに外出ができずに監視されていました。その為、壁が高く窓がありません。また家が長屋のようにつながっている為、防災用に屋根には卯建があり、窓がない為天井から灯りを取り、その下には防災用に雨水をためる場所がありました。



次に宏村を訪ねました。こちらにも多くの学生が写生をしていました。北宋時代に汪氏一族が風水を参考にして、村内に水を供給するために、牛の形に例えられる配置で集落を作りました。こちらも現在も村人が住んでいます。こちらの村の特徴は、水路です。高い外壁はありますが、中には広い庭があります。どちらの村も、国内外から多くの人が訪れます。しかし元々外からの進入に警戒した作りのため、住人には観光客の喧騒は関係なく、暮らしていました。

(次号、本草つうしん40号に続く)



2013年度 春期学生募集中!

◆ 中医薬膳師(通学)コース

1. 平日コース [第1・3火曜日] (2013年4月2日開講)
2. 土日コース [第2土・日曜日] (2013年4月13日開講)

※ 中医薬膳師(通信教育)コースは随時募集しております。

是非、お知り合いの方をご紹介ください!

理論講義: 10:00~12:00
講義と調理実習: 13:00~16:00
(昼休み約1時間)

